

日本バウハウス協会
講演 (zoom)
2026年8月26日(水)
18:30 - 20:00

板東 孝明

かたちのレゾナンス: 桂離宮、デ・ステイル、 バウハウスにみる造形原理



デ・ステイルにおける新造形主義、バウハウスにおけるミース・ファン・デル・ローエの構成的空間、そして桂離宮の茶室空間に見られる非対称の造形。時代も文化も異なるこれらの表現には、単なる類似を超えた「かたちの原理」が潜んでいる。とりわけ松琴亭のファサードの構成は、モンドリアンの絵画にも通じる抽象性を感じさせる。また、写真家・石元泰博が桂離宮を捉えたバウハウスの視線にふれながら、真の飛び石に見られる余白と配置を、パウル・クレーのコンポジションへと重ねて読み解く。本講演では、桂離宮、デ・ステイル、バウハウスを結ぶ造形の関係をたどり、美のレゾナンスが私たちに何を示しているのか、そして日本の美とは何かを考察する。

講師 板東 孝明 (ばんどう たかあき)

武蔵野美術大学教授。武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒業。専門はデザイン論、タイポグラフィ、シナジェティクス。ポスターやエディトリアルデザインを中心に、造形と思考の関係を探る制作・研究を行う。ヘリット・トーマス・リートフェルト、ミース・ファン・デル・ローエ、桂離宮を主題としたポスターシリーズ、ドイツ・Kieler Woche 1996のヴィジュアル・アイデンティティ、ジオデシック・ドームの研究開発などを手がける。2017年、バンドン工科大学ガネーシャ賞受賞。アジア、欧州各地の大学でデザインワークショップを開催し、直近では上海・復興公園にて竹ドームを制作。向井周太郎著『デザイン学』『形象の記憶 デザインのいのち』『マックス・ビル論考集』の編集デザインを担当。

主催 日本バウハウス協会(お問い合わせ)
<http://nipponbauhaus.jp>
講演は無料(Zoom)

講演申し込みは2次元コードまたは下記URL
https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_cSAB_jceQ1CwnUA50ThITw

